

令和3年度霞ヶ浦学講座第14講「霞ヶ浦×観光」実施報告案

実施日時：令和4年2月9日（水）～2月24日（木）オンラン動画視聴

講師：小川達己（霞ヶ浦環境科学センター） のべ視聴者数：27名

概要：「霞ヶ浦×観光」

霞ヶ浦流域では、古くは三社参り、昭和30年代には水郷観光などが行われてきました。霞ヶ浦湖岸付近は国立公園に指定されるなど優れた景勝地でもありました。また、数多くの国指定史跡、天然記念物などがあります。関東有数の貝塚の集積地でもあります。

最近では、つくば霞ヶ浦りんりんロードが整備され、多くの方々がサイクリングに訪れています。また、地形・地質などの「大地の遺産」を保護し、活用する観点からジオパーク（大地の公園）の取り組みも行われています。

観光と言う概念は、物見遊山的なサイトシーングから、体験型観光、着地型観光、インバウンドなど様々な流行を経て、少しずつ変わってきています。「観光」という言葉の原義を活かし、各々の光（資源など）を観るという捉え方もあります。地方創生と絡め、地域づくりや交流人口の増加の一貫としても観光にスポットがあたってきています。

本県をはじめ、市町村では、観光計画を策定しており、その中で、地域資源の発掘・活用、地域文化にふれる機会を増やすといった着地型観光や体験型観光に向けた取り組みの推進策が見られます。

【エコツーリズム】

1990年代には、環境教育・環境学習の広がりとともにエコツーリズムが叫ばれ始め、平成19年（2007）にはエコツーリズム推進法が議員立法で制定されました。この法律ではエコツーリズムは「自然観光資源について知識を有する者から案内又は助言を受け、当該自然観光資源の保護に配慮しつつ当該自然観光資源と触れ合い、これに関する知識及び理解を深めるための活動をいう。」と定義づけられ、基本理念として自然環境の保全、観光振興、地域振興、環境教育の場としての活用が定められています。

本県で実施の霞ヶ浦湖上体験スクールや霞ヶ浦などに関する水環境学習・河川学習も視点を変えれば、エコツーリズムの一環と捉えることもできます。

また、エコツーリズム以外にも、ブルーツーリズム、ホスピタルツーリズム、ジオツアーなど従来の観光の概念を越え、より地域文化、資源（人材を含む）を活用した体験主体の観光も増えてきています。

【持続可能な観光】

国連世界観光機関（UNWTO）では、「持続可能な観光」を「訪問客、業界、環境および訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在および将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光」と定義しています。つまり「持続可能な観光」とは環境への負荷を減らしたり、自然・地域文化などの保護・保全・継承につとめたりしている観光ととらえることができます。

また、グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会（GSTC）は、持続可能な観光についての共通理解を提供するために「GSTC-D」（地域基準的なもの）を制定しました。この基準は、観光に関わるすべての地域が目指す必須の基準とされ、持続可能なマネジメント、社会経済的影響、文化的影響、環境への影響の4分野から成り立っています。この国際的な基準をもとに日本でも、観光庁により「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTC-D）」が定められています。このガイドラインは持続可能な観光地マネジメントを行うための観光指標になります。

主な内容（抜粋）

カテゴリー（大）	カテゴリー（小）	
環境のサステナビリティ	自然遺産の保全	生態系の維持、野生生物の保護他
	資源のマネジメント	水資源の管理、水質
	廃棄物と排出量の管理	廃水、廃棄物、光害他

※日本版持続可能観光ガイドラインをもとに作成

分野は持続可能なマネジメント、社会経済のサステナビリティ、文化的サステナビリティ、環境のサステナビリティの4つに分かれています。環境のサステナビリティの中には自然遺産の保全など3つのカテゴリーがあります。この基準の中でも特に霞ヶ浦との関わりが深いものとして「水資源の管理」、「水質」、「廃水」の項目が挙げられます。評価指標としてモニタリングやリスク評価、水質データの報告書の作成などが定められています。また、水資源に関するリスクや節水の徹底についての情報を来訪者に提供することも指標とされており、宿泊施設などでのさらなる法令順守や旅行者への呼びかけも重要で、そして、霞ヶ浦へ訪れた方が、霞ヶ浦にふれることにより、少しでも水質浄化への意識を高め、居住地での生活様式に活かされるとよいと思います。

【人材育成】

本県では観光マイスター、市町村単位では観光ボランティアガイドなどの育成も行われ、各地で活躍されています。観光ボランティアガイドは、どちらかといえば歴史・文化的な視点での案内が多いようですが、霞ヶ浦との関わりや環境保全の重要性を伝えることも大切に思います。

先述の基準（JSTC-D）の中でも「解説は、地域のストーリーとして地域住民と協力して作成されていること」とされています。各地の歴史・文化的な話（案内・対話等）の中で、例えば、霞ヶ浦との関わり、霞ヶ浦からの恩恵（生態系サービス）を受けていることなどをうまく組み込み、ストーリー立てて伝えていく方法もあります。そのことにより、観光ボランティアの方々にも、さらに霞ヶ浦への関心が深まると思います。

【私たちにできること】

持続可能な観光の観点からは、霞ヶ浦の水質浄化に向けて日常生活の中で環境負荷を少なくするライフスタイルを実践すると同様に観光（小旅行的なものも含み）の中においても、環境への配慮に心がける必要があります。特に霞ヶ浦流域では、56本の河川等を通じて霞ヶ浦とつながっていますので、流域からの負荷を減らすことも重要です。

また、自然遺産の保護、観光資源の保護という点でも環境保全活動に取り組むことも重要になります。

【まとめ】

霞ヶ浦流域には、数多くの治水・利水など水資源にかかわる資源、博物館、学習施設・拠点があります。これらを「持続可能な観光」という視点からも、観光ルートに組み込むことにより、霞ヶ浦のファンやリピーターを増やし、霞ヶ浦の環境保全活動に活かせるのではないかと思います。